実技試験　準備品リスト

65 【基礎級　左官作業】

「実技試験問題に『支給材料』『使用工具等』と書かれているもののうち、持参が必須のものの案内です」

千葉県での受検では下記のものを人数分必ず持参して下さい。

（1名分）

○材料

更新日：2026.6.15

チェック欄	品名	寸法又は規格	数量	備考
	ラス下地用既調合軽量セメントモルタル★	JIS A 6918	約7L	下こすり　中塗り用

※試験で発生したゴミは、必ず持ち帰って下さい。

○工具等

チェック欄	品名	寸法又は規格	数量	備考
	定木	長さ　450mmの刃定木	各1	当たり用
		長さ　870mmの刃定木		
	試験用下地	実施要領（【別紙1】）参照 ※下塗りは両面とも行うこと。	1	※実施要領2ページ及び3ページ（【別紙1】）に記載されたとおりに作成すること。下塗り用材料にモルタルを使用する等記載どおりでないものは、使用不可。 また、下地支持枠は別紙【1】【2】【3】【4】に記載のとおり作成し、下地を取り付け乾燥させたものを持参すること。
	清掃道具		一式	ほうき、ちり取り、ごみ袋
	バケツ	10L程度 6L程度	各1	セメントモルタル用★、ちり拭き用、残材処理用
	れんがごて		1	
	中塗りごて又は角ごて	180mm程度	1	
	墨出し用具		一式	墨つぼ　墨さし 墨色は朱色（赤色）が望ましい
	鉛筆・消しゴム		一式	
	スケール(メジャー)		1	コンベックスルールでもよい
	さしがね	300mm×150mm程度	1	
	ビニルシート	1m×1m程度	1	養生用
	ブラシ		1	
	こて板		1	
	ちりぼうき		1	
	ぞうきん		1	
	作業服等		一式	作業に適した靴を含む
	飲料		適宜	熱中症対策、水分補給用
	コーナー定木	7R	適宜	塗り厚7mmを確保できるもの
	計量器		適宜	
	混練用器工具		一式	混練用かくはん機でも可
	受検票		1	
	実技問題	当協会から交付した原本 ※試験結果が出るまでは処分しないこと	1	コピーしたものは不可
	救急用具		適宜	

※既定の寸法どおりのものをお持ちください。また必要に応じて予備も持参してください。

【別紙１】　実施要領抜粋

（３）　試験用設備

試験用設備は、「第 2 章　設備基準」に示すとおりとするが、その準備に当たり留意すべき事項は、次のとおりである。

イ　コーナー定木は 7R を使用し、下地の出隅部に取り付けておくこと。

ロ　試験用下地

(a)　下地用合板

下地用合板は、日本農林規格(JAS)の普通合板 1 類の 910×1820×18mm のものを 450×890×18mm (4 枚取り)にして使用すること。

(b)　下地用合板へのカチオン系セメント薄塗り材の塗布

試験台は、試験開始前にカチオン系セメント薄塗り材を塗り面に1回塗りする。塗付けにあたり周囲木枠を汚さないようにすること。

なお、試験実施日の1週間くらい前に塗布しておくこと。

また、コーナー定木の保護として、こづらについては、セメントモルタルをコーナー定木いっぱいまであらかじめ塗布しておいてもよい。

(c)　下地用合板の取付け

下地用合板をはめ込む場合は、ねじれることなく確実に固定すること。

なお、合板をはめ込んだ後の手前上下の溝部は、下塗りのときに、木、下塗り材又は養生テープで埋めておくこと。

(d)　下地支持枠

すぎ、ひのき等の平割り材を使用するものとし、水平材は 30×90mm 角程度、垂直材は水平材よりも 10mm 程度幅の広いものを標準とするので、第 1 図を参考として準備すること。

なお、採点に影響のないものであれば、第１図のように平割り材に溝を掘って試験用下地をはめ込む形式でなくても、施工面積である 870mm×450mm が確保できるのであれば、上下の水平材や脇の垂直材にビスでとめる形式や上下の水平材や脇の垂直材に薄い板を張り、その中にすべり込ませて固定する等の各都道府県協会で工夫した形式のものでもよい。

(e)　下地支持枠の取付け

第２図に示すように、下地支持枠取付け用設備に、なまし鉄線等を使用して固定すること。

なお、下地支持枠取付け用設備及び試験用下地の取り付けについては、受検者の作業、技能検定委員の巡回等に支障のないように、十分に注意すること。

(f)　下地支持枠及び試験用下地の再使用

下地支持枠を再使用する場合は、枠に残っている墨などを消してから下塗りし、十分に乾燥させて使用すること。(養生テープ等を使用しても可。)

また、試験用下地は、試験当日又は翌日午前中であれば、こて、削り棒等で中塗り部分をはがし、試験開始前の状態にもどすことができる。

中塗り部分をはがしやすくするためには、カチオン系セメント薄塗り材の上に、次表に示す材料を塗り下塗りの状態としてもよい。

区　　分	下地1台分の必要量
内装薄塗材(W)　JIS　A　6909	0.4 ℓ程度

(g)　下塗り用材料

下塗りに使用する材料は、次表に示す調合で練り合わせたものを使用するものとする。また、下塗りについては両面について行うものとする。

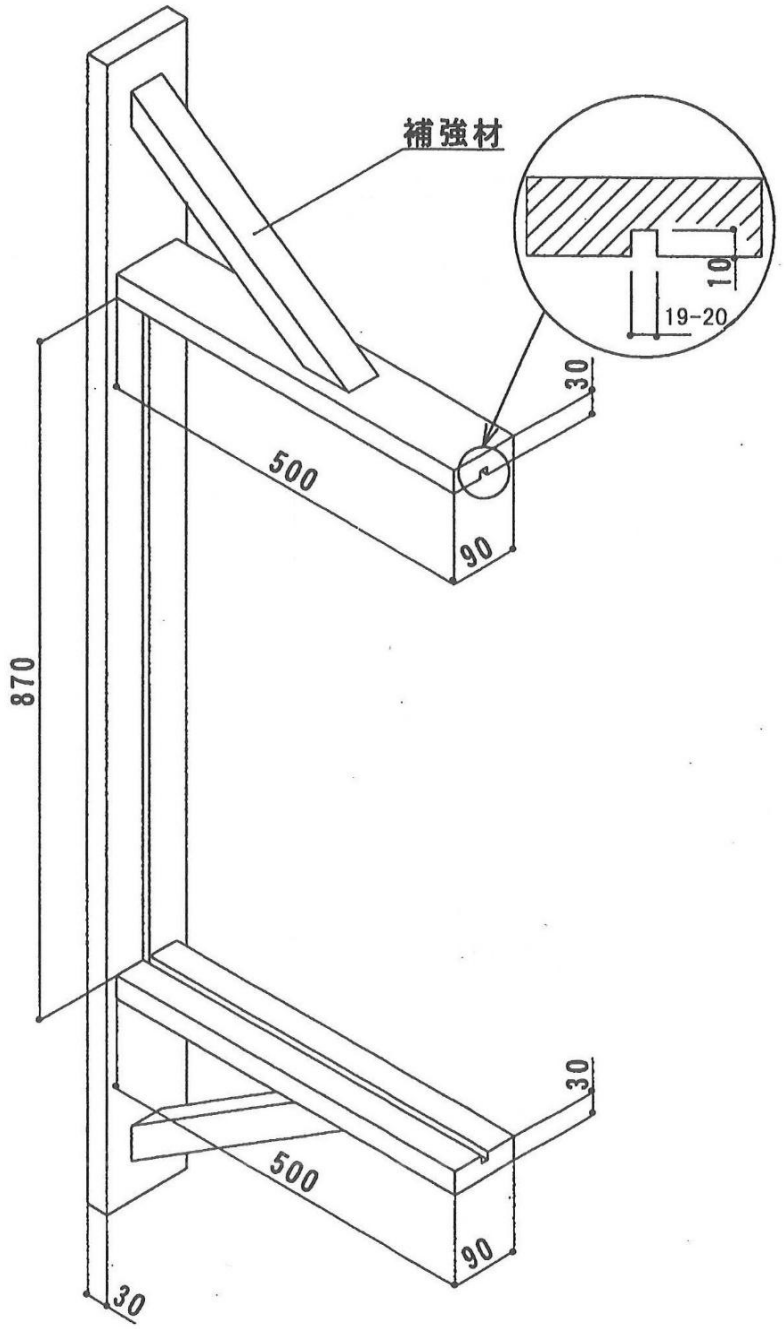
品　　名	調合(容積比)	下塗り厚を 1mm とした場合
カチオン系セメント 薄塗り材	1.0	片面分　約 0.5ℓ 両面分　約 1.0 ℓ

(h)　下塗り厚

平の面の塗り厚は、1mm を標準とし、こづら面は塗りつぶしておくこと。なお、下塗りは試験を円滑に実施するため、試験実施の１週間くらい前に行い、試験当日に下地が十分乾燥した状態で試験が行えるよう、乾燥法、保管方法等を考慮すること。

【別紙２】

第１図（参考図）

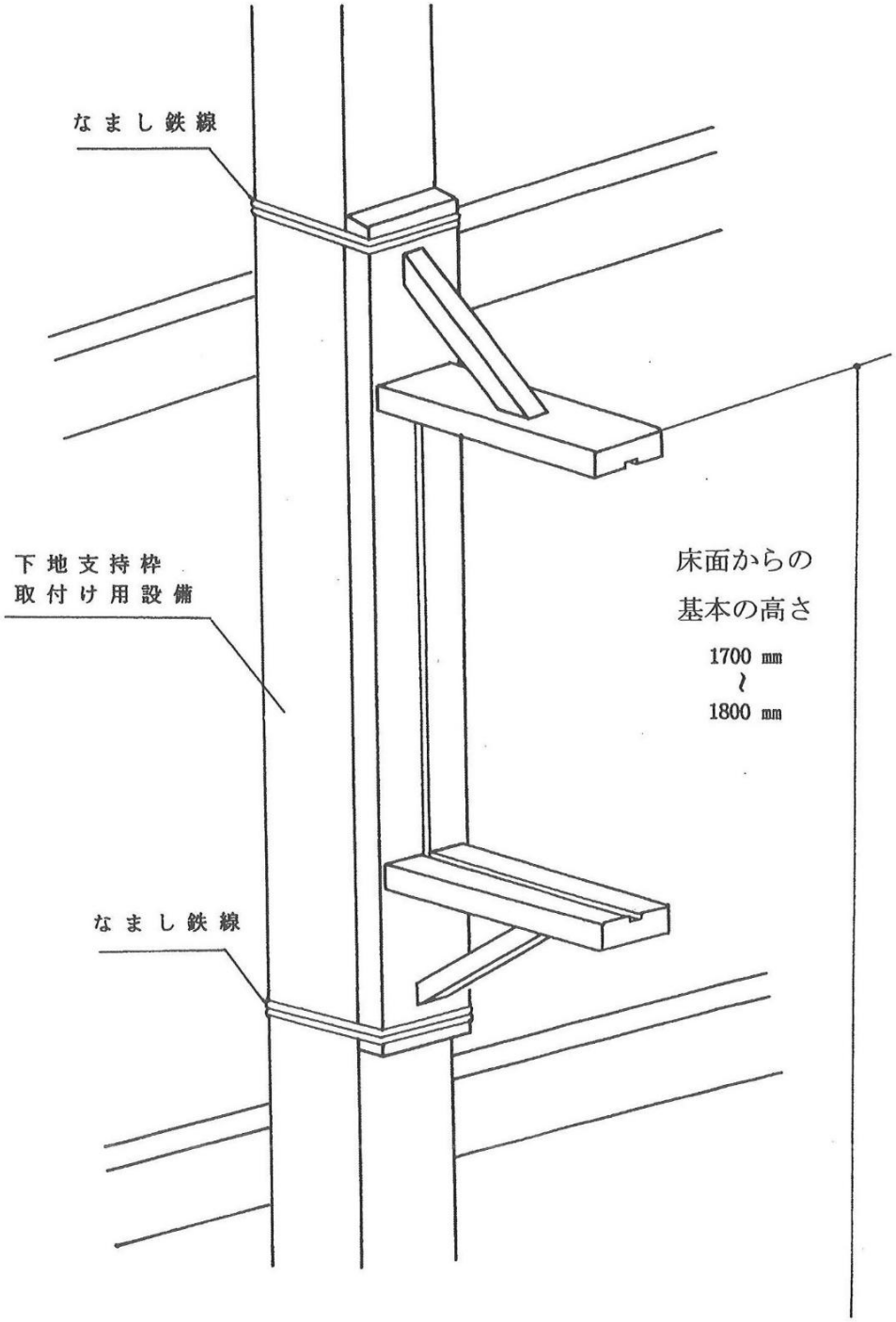


（単位：mm）

【別紙３】

第２図（参考図）

下地支持枠の取付け例

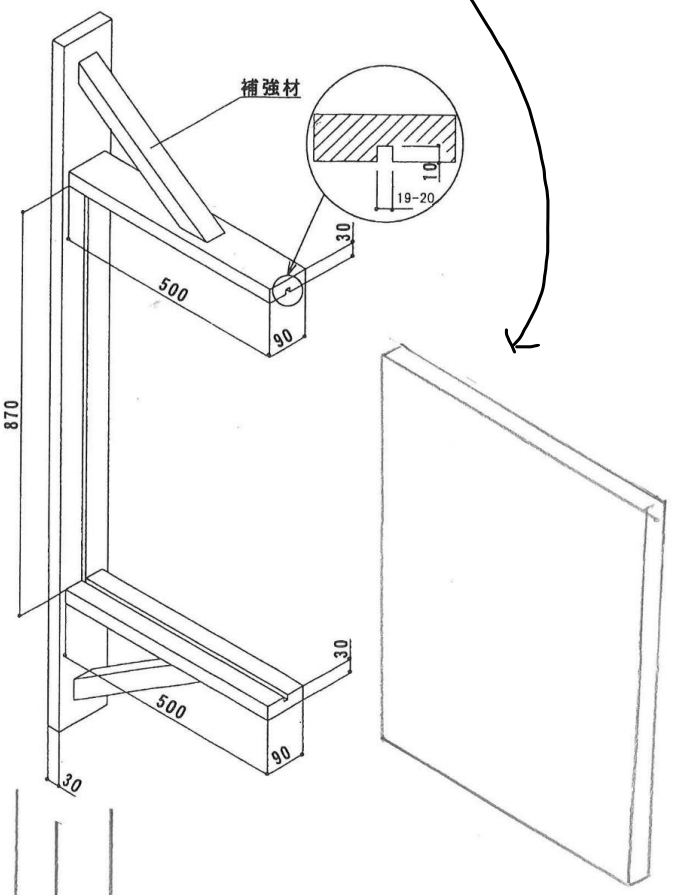


【別紙4】下地支持枠も作成の上、持参してください。

●試験用下地用合板

・下地用合板に「カチオン系セメント薄塗り材」で下塗りをすること。こづら面は塗りつぶしておくこと。
（カチオン系セメント薄塗り材の一例として、ヤヨイ化学のアースタックが該当する）

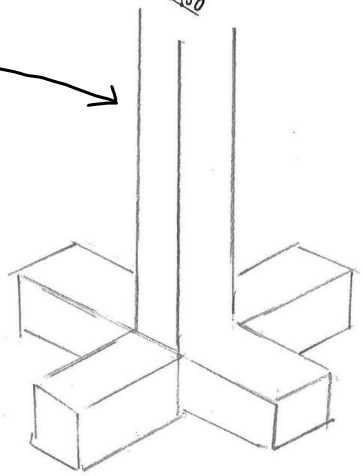
・コーナー定規（７R）を下地の出隅部に取り付けておくこと。



●下地用支持枠例

※下地支持枠は、柱をたて固定したものを持参すること。

※支給材料も含め、必要なものはすべて持参すること。



【重要】実技試験注意事項
「試験台の持参」と「残材等の処理」について

各監理団体・受検企業 御中

※重要なご案内です。監理団体の方は、下記の内容を受検企業と共有して下さい！

①試験台の持参

●本試験は、集合形式（集合試験会場）での実施となることから、「試験台」は、組み立てた状態で持参して下さい。

●試験会場建屋外（試験会場敷地内駐車場・通路等）で、試験台の組立て作業を行うことは禁止です。

●やむを得ず試験当日に会場にて作業をする場合は、試験会場が開場された後、試験会場内で作業をして下さい。

②残材・廃材の持ち帰りについて

●試験台搬入で発生した残材・廃材はすべてお持ち帰り下さい。

注意！
過去に駐車場に釘が落ちていた事で車のタイヤがパンクした事があるため、帰る前に試験会場内、駐車した場所及び通路に残材等（特に釘やタッピングネジなど、タイヤのパンクを誘発する恐れのあるもの）が落ちていないか、清掃・片付け・確認を徹底して下さい。

◎試験当日は協会職員の指示に従い、適切に残材等を処理するようお願いします。

※集合試験会場
- ちば仕事プラザ（千葉市美浜区幕張西4－1－10）
- 若松検定試験場（千葉市若葉区若松町717－5）
- 高度ポリテクセンター（千葉市美浜区若葉3－1－2）
- ポリテクセンター千葉（千葉市稲毛区六方町274）